

## 療養費改定 6月1日より実施

4月23日に開催された社会保障審議会医療保険部会の第14回柔道整復療養費検討専門委員会において、平成30年度の柔整療養費の改定が承認され、6月1日より以下の項目について適用されることになった。

今回はこれまでの適正化の流れを踏まえ、適正な請求を行う施術者が正当に評価されるよう改定が行われた。改定率は0.32% (医科0.63%) で、骨折・不全骨折・脱臼の請求においては柔道整復運動後療料の310円が新設され、金属副子等加算では大きさに関わらず一律950円が必要に応じて3回まで算定できるという大きく前進する改定となった。

また、支給対象となる「急性又は亜急性の外傷性の骨折、脱臼、打撲及び捻挫」から「急性、亜急性」の文言が削除され、組織の損傷が慢性に至っていないものであると新たに明示された。これによって外力という観点では、より幅の広い捉え方ができると思われる。

### 【在庫がなくなり次第、新様式に】

なお、今回の改定により支給申請書の書式の変更が行われるが、協同組合の在庫がなくなるまでは、修正と追記で対応されたい。レセコン会社には保険部より改定内容を伝え、対応するよう依頼している。

- 再検料の引き上げ 320円→400円
- 骨折・不全骨折・脱臼に係る柔道整復運動後療料の新設 →310円 (1回20分程度、運動による後療を実施した場合。負傷日より16日目から適用。週1回程度、1ヶ月(暦月)に5回を限度とする)
- 金属副子等加算の包括化  
大型(1,030円)・中型(910円)・小型(680円) →すべて950円
- 金属副子等加算の2回目、3回目の新設 (取り替えが必要なもの)

### 【専門検討委員会の次の議論は違法広告】

虚偽・誇大表示などを禁じる改正医療法が6月1日より施行され、医療機関によるホームページ上での不適切な情報の表示は罰則や中止命令の対象となる。

柔整療養費専門検討委員会でも療養費改定の次の議題として、ウェブサイトを含め違法広告の強化が検討され始めた。

5月6日(日)豊橋市総合体育館にて、豊橋バレーボール協会創立70周年記念式典が行われ、同協会の発展と振興に尽力してきた個人や団体、企業が表彰された。

AJAST(愛知県柔道整復師会豊橋支部アスリートサポートチーム17名)も功績を認められ功労者表彰を受けた。

式典には代表の後藤年宏会員はじめ源田実会員・中島正勝会員の3名が出席した。(報告 豊橋 中島正勝)

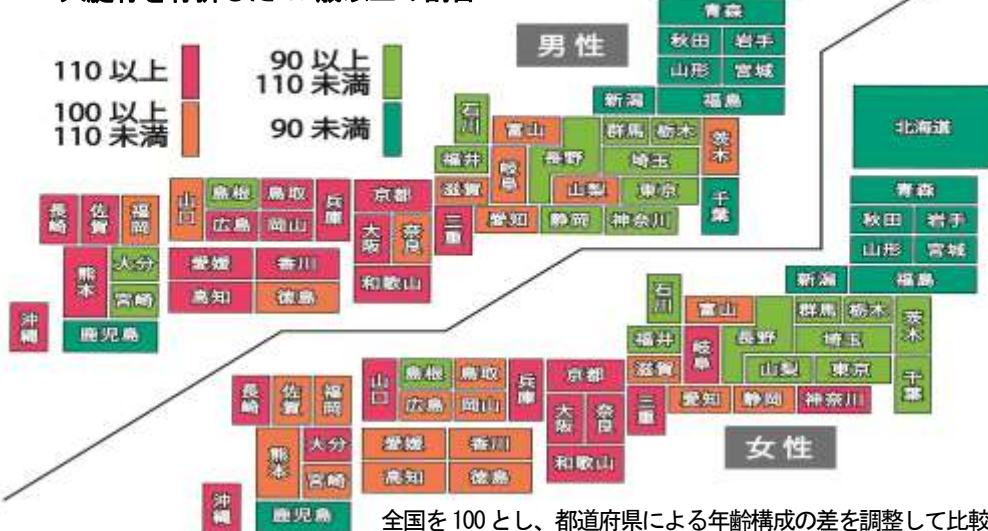
### 豊橋バレーボール協会より表彰



谷村泰裕会長より表彰を受ける後藤代表(右)

## 中高年骨折リスク「西高東低」

大腿骨を骨折した40歳以上の割合



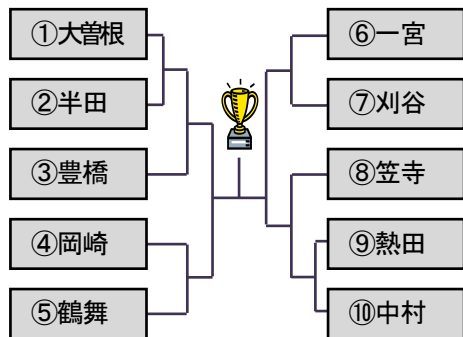
## Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
水野綱一	H4.6.8	中村	米田柔整	—	映画鑑賞
尾関良洋	H3.9.5	大曾根	米田柔整	—	スポーツ観戦



尾関良洋会員→

## 柔道大会組み合わせ決まる



水野綱一  
二  
会  
員



5月18日(金)の支部柔道担当者会議において、6月3日(日)の第39回本会柔道大会の組み合わせが決定した。

なお、少年形競技会もこの番号順で行われる。

応援よろしくお願いします!

開催  
予告

- ◆ 6月3日(日) 愛知県武道館 第3競技場  
第11回柔道整復専門学校柔道大会 9:30~12:00  
第7回(公社)愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会 12:00~14:30  
第39回(公社)愛知県柔道整復師会柔道大会 14:30~16:45
- ◆ 7月1日(日) 10:00~12:00  
第53回愛知県柔道整復学会・第90回会員研修会 愛整会館

5月16日(水)午後1時30分から2時40分まで、愛整会館3階講堂にて、出席総代30名と委任状提出総代68名の合計98名が参加し、愛知県柔道整復師協同組合第22回通常総代会が開催された。

## 新体制初めての組合総代会開催



近藤和義理事長就任後初めての通常総代会開催となり、以下の3議案について審議された。

- 第1号議案 第22期決算関係書類承認について
- 第2号議案 第23期事業計画(案)及び収支予算(案)承認
- 第3号議案 組合員除名について

第1号・第2号議案は承認されたが、第3号議案については定款による必要な出席者数を満たさず議決されなかった。そのため5月27日(日)、ホテルナゴヤキャッスルにて、社団総会前の午後1時30分より再度臨時総代会を開催することとなった。

中高年の大腿骨骨折の人口あたりの割合は、西日本で高く北海道や東北地方で低いという調査結果を、骨粗鬆症財団や近畿大学などの研究グループがまとめた。

調査は厚生労働省のデータベースを利用し、大腿骨骨折をした40歳以上の男女の割合を、年齢の隔たりを調整したうえで都道府県別で比較した。2015年に大腿骨を骨折した人は男性3万2千人、女性12万人。75歳以上が男性で76%、女性で87%を占め高齢者ほど骨折しやすかった。

都道府県別で比較すると、「西高東低」の傾向が浮かび上がった。全国平均を100とした骨折の発生比は、女性では兵庫や和歌山、沖縄など西日本で高く、秋田や青森など東北以北で低かった。男性も同じ傾向で、最も高い沖縄と低い秋田で2倍超の差があった。

地域間の隔たりの原因ははっきりしないという。過去にはカルシウムの骨への吸収を助けるビタミンKの血中濃度は西日本で高く、ビタミンKを多く含む納豆の消費量が関係するといった報告があり、食生活が影響する可能性も考えられるとしている。(2017年10月13日付、読売新聞より)